

協まちま月生 だより

第45号

令和3年1月15日発行



生月地区まちづくり
運営協議会

TEL/FAX 0950-29-9080



笑顔あふれる一年に：

会長 石川 隆雄

明けましておめでとうございます。

ご家族お揃いで輝かしき新春を迎えられた事を心からお慶び申し上げます。

昨年は、生月地区まちづくり運営協議会の活動に対し温かいご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

さて、昨年を振り返りますと、世界中に感染拡大をいたしております新型コロナウイルスにより全ての人々の日常が完全に失われ、あらゆる事象が大きく変化を余儀なくされた一年でありました。九月には台風九号・十号とたて続けに大型台風が接近・通過し、多くの住民避難があり、自然の猛威に恐怖心を体験したところです。多くの家屋被害や倒木等が発生しましたが、人的被害がなかったのが不幸中の幸いでした。これからも自然災害等に対応出来る様訓練を通じて、更に活動していきたいと思っております。

本協議会で計画致しておりました事業もコロナ禍のため残念ながら中止や変更をせざるを得ず大変混乱したところでありました。今年も活動が計画通り実施出来るか大変不安な所ですが、可能な限り実施していきたいと思っております。感染しない、させない行動を今一度確実に実行し、一日も早い終息が実現出来ま様にワンチームで取り組んでいきましょう。

結びに、本年も町民皆様の多くの意見やアイデアを汲み取り、ともに地域づくりに邁進して参りたいと思っておりますので、一層のご指導・ご協力とご参加をお願い致しますと共に、ご健勝・ご多幸と本年も良い年であります様ご祈念申し上げます。

まち協活動予定

上場の杜植樹祭

3月7日(日) 上場の杜公園にて『みんなで植樹祭』を開催予定です。上場の杜公園管理組合との合同開催となります。詳しくは後日配布のチラシにてお知らせします。

絶景の道ハイキング

3月14日(日) 御崎地区にて新日本歩く道紀行100選にも選ばれた道を歩く『絶景の道ハイキング』を開催予定です。詳しくは後日配布のチラシにてお知らせします。

番岳参道清掃

2月21日(日) 元触塚目牧野改良組合と合同で、生月のシンボル『番岳』の参道清掃作業を行います。

※新型コロナウイルス感染症により、予定を変更することがあります

編集後記

遠くよりマスクを外す笑みはれやか（富安風生）

「はずっしちゃだめっ」という罵声を浴びせられそうな俳句です。今だったらという枕詞を着けなければなりません。しかし、現在では、マスクは必要不可欠のものです。明治大正期の人達にもマスクを着ける習慣があったのだなとこの句から想像されて妙に不思議な気分になりました。富岡風生は、明治に生まれ昭和で没した高浜虚子の門弟で「風生と死の話して涼しさよ」と虚子に詠ませるくらいの達人だったようです。ところで、小生は時々駄作をひねることがあります。俳句には季語など色んな決まり事があるのですが、無精者の小生は、そこらの勉強は省略していますので、多分先生からは「なんなんだ」と叱りを受けるくらいの物だと思えます。

俳句は、小説や詩などと違い17文字という一番短い言葉を用い、そこに風景や人の思いを落とし込むという作業を行う非常に難解なものです。小生などが簡単にいくわけがないのですが、下手の横好きなのですかね。

「はずっしちゃだめっ」という罵声を浴びせられそうな俳句です。今だったらという枕詞を着けなければなりません。

小生が小さい頃、母親が句集を渡してくれたことがありました。それは母親が大事にしていたもので、装丁もボロボロ、何度も頁を繰ったであろうことを証するようなしわやシミが刻み込まれている代物でした。

ただ、句集を手にするとなんとか母親の人生を垣間見ているような気分がして、何度も繰り返し読んだのでした。

句集には芭蕉に始まり近代までの俳人の作品が並んでいました。どれも秀逸でそして景色や人間の生業がスパッと切り取られていて子供ながらワクワクしたことを覚えています。その句集は、引越の際どこにやったのかわからず現在も消息不明です。しかしながら、登場していた俳句は心の奥底に刻み込まれているのか、時々ふっとその姿を現してくれるのです。

ということで、新年を迎え一句ひねってみました。

『七草や わけ知らずも 朝の膳』
今年もよろしくお祈いします。

(学)

